

平成23年3月29日

財団法人 笹川記念保健協力財団  
理事長 紀伊國 献三 殿

施設名 社会福祉法人 聖徳福祉事業団

代表者 理事長 山本 敏博 印



平成22年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業助成  
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

1. 研究・研修事業 平成22年度ホスピス緩和ケアドクター養成研究事業
2. 期 間 平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日
3. 報 告 書
  - I 事業の目的・方法
  - II 内容・実施経過
  - III 成果  
(上記I～IIIをA4縦・横書 6,000字程度にまとめる)
  - IV 収支報告
    - ①助成金の使途(人件費以外は領収書等の証憑書類を添付)
    - ②当該助成金に関わる部分の決算書「写」  
(貴機関の全会計決算書ではなく、当該助成計上部分のみで可)  
※決算期の関係で平成23年3月18日(金)までに「写」を提出できないときは提出予定日を記入  
(提出予定日 平成23年6月1日)
  - V 研修修了者報告書

以上

# 平成 22 年度ホスピスドクター養成研究事業修了報告書

聖隷三方原病院ホスピス 井上 聡

## I 目的

高齢化の進行とともに、がん患者が年々増加する中で、ホスピス・緩和ケア病棟や緩和ケアチームに従事する熟練ドクターが不足している。

このような現状をふまえ、わが国のホスピス・緩和ケアの向上のため、将来ホスピス・緩和ケア病棟においてリーダーとなる十分な識見と経験のある専門ドクターを育成することを目的とする。

## 方法

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの一年間、ホスピス入院患者を指導医の下で担当医として受け持つこと、さらには一人で主治医として受け持つことを通じてホスピス・緩和ケアを実践する。

また、学会や研究会、研修会に参加することや、最新の海外文献を読むことでホスピス・緩和ケアの知識を身につける。

## II 内容・実施経過

研修期間中（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 23 日）にホスピス入院患者 73 名を受け持ち、休日には当番医としてホスピス入院患者だけでなく緩和ケアチームが介入している患者にもホスピス・緩和ケアを実践した。

また、OPTIM（緩和ケア普及のための地域プロジェクト）のセミナーや当院で開催された緩和ケア研修会(PEACE)でのレクチャー及びファシリテーターを務めた。

日本緩和医療学会や浜松市内で行われた緩和ケア研究会などにも参加した。

毎週行っている抄読会で月に 1～2 回担当し、最新の海外文献を読み、発表することを通してホスピス・緩和ケアの知識を深めた。

## III 成果

- 1) 疼痛マネジメント、症状マネジメントにおける態度、技術、知識を身につけた。
- 2) 心理社会的側面においては、心理的反応を理解し、コミュニケーション技術を習得、また、社会的経済的問題の理解と援助についても習得した。
- 3) 家族、家庭的問題にも対応することができ、死別による悲嘆反応についても理解し、その対処法を習得した。
- 4) 自分自身およびスタッフの心理的ストレスを認識し、ケアすることができた。
- 5) 患者のスピリチュアルペインを理解し、適切な援助について習得した。
- 6) チーム医療の重要性と難しさを理解し、互いに尊重しあい、チームの一員として働く

ことができた。

7) 在宅ホスピスケアは現在直接行ってはいないが、在宅支援のための短期入院患者を受け持つことによって診療所や訪問看護ステーションなどとの地域連携について学んだ。